

未来を拓くたくましい八木山っ子の育成

～コミュニティ・スクールの取組とユニバーサルデザインの視点を生かした個に応じた授業づくりを通して～

1 はじめに

本校は、飯塚市の自然豊かな八木山の地、「貝原益軒」の「養生訓」の碑の近くに位置し、全校児童16名（地域の児童3名）のコミュニティスクールで、校区外の市内からも児童が通学している。

地域の協力も大きく特色ある教育活動が盛んである。しかし、児童減少で完全複式の授業であることや自己肯定感があまり高くない児童の増加などで、個に応じた指導の必要性を求められている。

そこで、コミュニティスクールとして特色ある教育活動を、縦割り活動で行いながら思いやりの心を育みたい。また、市の教育施策や書くことの実践を、ユニバーサルデザインの視点を生かして個に応じた授業づくりを、周知・徹底しながら行っていくことで、教職員が協働体制で取り組み、八木山っ子の育成を目指したい。

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

学習指導要領の前文には、「これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な意図人と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」とある。社会とのつながりが必要であり、＜社会に開かれた教育課程＞を意識した教育指導計画が各学校に委ねられる。

また、令和2年度から実施されている学習指導要領では、次の3点を踏まえた教育活動を推進している。

① 資質能力の3つの柱の育成

- ・実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」の習得
- ・未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成
- ・学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性の涵養」

② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

③ 学校のカリキュラムマネジメントの推進

以上のことから、コミュニティ・スクールを基盤に、未来を拓く八木山っ子を育成することは意義がある。

(2) 飯塚市がめざす教育から

「飯塚市学校教育プラン R3」で、飯塚市教育の基本理念として、飯塚市の未来を担い、世界へはばたく本物志向・未来志向の人づくりのために、「コミュニケーション能力」「コラボレーション能力」「イノベーション能力」を育成している。

未来社会を切り拓く資質・能力を育成する小中一貫教育の創造のために、9か年の連続性のある「学び」「育ち」を追究した教育活動を基盤にしている。各成長段階（前期・中期・後期）毎に子どもたち一人一人のキャリア形成を図っている。各期における未来・地域・世界とつながる教育活動を通して、「本物」との出会いや「体験」を通じて、自己や社会の「未来」を前向きに創造する子どもたちを育てる「キャリア教育」を推進し、学校区で連携しながら実践をすすめている。

よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の作り手となるために必要な3つの資質・能力（・実際の社会や生活で生きて働く知識及び技能、・未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等、・学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力）を育てながら、飯塚市教育の基本目標は、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」、「かしこく」「やさしく」「たくましい」子どもの育成としている。

本校は、少人数のために、多人数の前で発表することに苦手意識を持っている児童も多い。また、自己肯定感があまり高くない傾向にある。そのため、児童のキャリア形成が強く求められている。

以上の飯塚市がめざす教育からも、コミュニティスクールである本校が、飯塚市の教育施策の実践をユニバーサルデザインの視点から行い、未来を拓く八木山っ子を育成していくことは意義がある。

(3) 本校の特色ある教育活動から

本校は、自然豊かな八木山の地、「貝原益軒」の「養生訓」の碑の近くに位置し、全校児童16名（地域の児童3名）のコミュニティスクールで、校区外の市内からも児童が通学している。

また、学校運営協議会も年に3回開かれていて、地域の皆さまに支えられて、教育活動が成り立っている。また「緑の少年団」や「福岡県青少年赤十字」にも加入している。

この他にも、地域の方々に指導していただいている「八木山獅子舞」「田植えに始まるうるち米の稲作り」や、夏場所と秋場所に開く「相撲大会」、春と秋の「野鳥観察」、地域の方々と力を合わせる「住民運動会」など、特色ある教育活動が目白押しである。

さらに、本校は全児童16名しかいないために、掃除活動をはじめ、縦割り活動で様々な学習活動を行っている。

このように、地域の皆さまに支えられながら、特色ある教育活動を通して、縦割り班活動を通して、思いやりの心を育て、未来を拓く八木山っ子を育成することは意味深い。

2 主題及び副主題の意味について

(1) 主題の意味

「未来を拓くたくましい八木山っ子の育成」とは、「社会に開かれた教育課程」を通して、3つの資質能力（生きて働く「知識及び技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性の涵養」）を持つ八木山っ子を育成することを意味する。そのために、

- ① コミュニティスクールである本校において、地域・家庭と連携・協働することで、縦割り班での活動を通して、思いやりの心を育てること。
- ② 学力向上検証ロードマップを通じた学力向上検証委員会を定期的に行い、個に応じた指導の在り方を担任会で確認し合い、ユニバーサルデザインの視点から教師も子どもも見通しを持ちながら、教育課程を進めていく。

(2) 副主題の意味

コミュニティスクールの取組とユニバーサルデザインの視点を生かした個に応じた授業づくりを通してとは、下記の2点から飯塚市の教育施策を実践していくことで、思いやりの心を持ち、見通しを立てて、自ら考え、表現する未来を拓くたくましい八木山っ子を育成することを意味する。

- ① 本校の特色ある教育活動をいかしながら、縦割り班でコミュニティ・スクールの活動に取り組み、思いやりの心を育み、互いに高め合う人間関係づくりを推進し、学びを自分の生活に生かす子どもを育成すること。
- ② ユニバーサルデザインの視点（シンプル・クリア・ビジュアル・シェア）を生かしながら個に応じた授業づくりを行い、飯塚市の教育施策を実践していくことで、課題解決のための基礎・基本の定着と思考力・判断力・表現力を育成すること。

さらに、小中一貫校飯塚鎮西校と連携し、9年間の連続した学びの中で各成長段階（前期・中期・後期）において、子ども達一人一人のキャリア形成を図り、各期における未来・地域・世界とつながる教育活動を通して、「コミュニケーション能力」「コラボレーション能力」「イノベーション能力」を育成していくことを意味する。

21世紀を生きる子どもたちの社会的・職業的自立に向けて必要な3つの資質・能力

- ① コミュニケーション能力 … 受け止める力、伝える力
- ② コラボレーション能力 … 協働して共に創り上げる力
- ③ イノベーション能力 … 新たなものを生み出そうとする力

3 研究の目標

「社会に開かれた教育課程」（八木山小学校の教育指導計画）を通して、思いやりの心を持ち、見通しを立てて、自ら考え、表現する未来を拓くたくましい八木山っ子を育成するために、コミュニティスクールの取組とユニバーサルデザインの視点を生かした個に応じた授業づくりについて究明する。

4 研究の仮説

「社会に開かれた教育課程」（八木山小学校の教育指導計画）を推進するために、学校運営協議会などコミュニティ・スクールとしての特色ある教育活動を通したり、飯塚市の教育施策（多層指導モデル MIM、徹底反復学習、知識構成型ジグソー法による協調学習、プログラミング学習、オンライン英会話など）をユニバーサルデザインの視点を生かし個に応じた授業づくりをしたりしていけば、思いやりの心を持ち、見通しを立てて、自ら考え、表現する未来を拓くたくましい八木山っ子を育成することができるであろう。

【研究の手立て】

思いやりの心を持ち、見通しを立てて、自ら考え、表現する未来を拓くたくましい八木山っ子を育成するために、次の3点を位置付けた授業づくりを仕組む。

<手立て1> **資質能力の3つの柱の育成に向けての授業づくり**

- ① 生きて働く「知識及び技能」の習得
(多層指導モデル MIM、徹底反復学習、オンライン英会話、速読など)
- ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成
(知識構成型ジグソー法による協調学習、プログラミング学習、書く活動など)
- ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性の涵養」
(地域の方々との学び…「八木山獅子舞」「田植えに始まるうるち米の稲作り」や、夏場所と秋場所に開く「相撲大会」、春と秋の「野鳥観察」、地域の方々と力を合わせる「住民運動会」、及び「緑の少年団」や「福岡県青少年赤十字」など八木山小学校ならではの特色ある教育活動など)

<手立て2> **ユニバーサルデザインの視点を生かし個に応じた授業づくり**

- ① 校内研修でユニバーサルデザインの視点を生かし個に応じた授業づくりの推進
- 各教科等の内容を踏まえた**授業構想**
- 教室環境、学習規律、関係づくり等の**授業基盤**
- 発問、指示、板書、ノート指導等の**授業運営**

(「通常の学級におけるユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり」：福岡県教育センター 平成27年)

<授業構想>

シンプル	クリア	ビジュアル	シェア
学習指導要領の内容を踏まえた、本時のめあての焦点化	八木山っ子の思考過程を踏まえた指導過程の構築	言語情報を絵や写真、動作などに置き換える必要のある場面の想定	ペアやグループによる話し合いの場の設定

<授業基盤>

シンプル	クリア	ビジュアル	シェア
身の回りの物音や声等を減らすための配慮	八木山っ子の実態に応じた座席配置や間仕切りの設置	学び方等の掲示と活用(授業の流れが分かる番号の活用)	複式学級や縦割り班での児童の人間関係づくり

<授業運営>

シンプル	クリア	ビジュアル	シェア
発問の精選やカード化	タイマーの使用等による活動時間の見通し	ICTの活用、絵図やカード、具体物等の準備	話し合いのポイントや手順及び話し合いの内容を可視化するミニホワイトボード等の準備

◎ 「ずらし」「わたり」のある授業の在り方

- ・ 導入における「問い」づくり(主体的な学び)
- ・ 展開段階の交流活動の活性化(対話的な学び)
- ・ 終末段階の「価値づくり(振り返り)」(主体的な学び)

② 教室訪問での日常的な指導価値付け

- ・ 学習問題、交流活動、振り返りなどへの評価
- ・ ルーブリック評価や「教えてよアンケート」の推進

<手立て3> **学校のカリキュラムマネジメントの推進**

- ① 八木山小学校の児童、学校、地域の実態把握をもとに教育課程の実施状況を評価して改善を図っていくCAPDサイクルの推進(学校通信やHPで公表)
- ② 教育課程の実施に必要な人的または物的な体制づくりと学校内外の資源活用

5 検証方法

検証授業によって、個に応じた学力向上や思いやりの心の形成が育ちつつあるかを検証するために、ICTによる授業記録を撮るとともに、「キャリア・パスポート(ノート)」の活用や、ルーブリック評価、「教えてよアンケート」を行い、毎時間の振り返る力と関連づけて、児童の育ちを把握する。

未来を拓くたくましい八木山っ子の育成

浸透

連携

協働体制

学力向上

ねらいを明確にした授業と整備された教室環境で参加集中、理解を促進

思いやりの心

報告・連絡・相談を密にし、地域と連携

特色ある教育活動

【着眼2】

ユニバーサルデザインの視点を生かした個に応じた授業づくり

【着眼1】

地域等の人材活用と縦割り班活動で思いやりの心を育成

個に応じた児童の実態把握